

第 110 回古民家歴史部会歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ第・第 5 回」

ふじやま公園古民家歴史部会・長谷川記

平成 28 年 9 月 7 日(水) 「川崎宿(2)」

*集合：(京急)川崎駅(中央口) 9 時 50 分厳守同時出発

- (1) 行 程： 下記『探訪先に同じ。]
- (2) 食事 場所： 自 由 行 動
- (3) 探 訪 先： 「神奈川の宿場を歩く」、「東海道五十三次ハンドブック」等を参考にした。

(京急)川崎駅・スタート、旧東海道を、前回歩いた「万年屋跡、田中本陣跡」などを
経て、下記①より順次 辿って行く。

- ① 一 行 寺：浄土宗の寺。本尊は阿弥陀如来。寛永 8 年(1631)、宿場として活気を
帯びてきた、川崎宿新宿町に、念仏弘通の道場として開かれた。本陣火災の際
の宿泊避難場所でもあった。おえんまさま・閻魔堂ご開帳日：1/16、7/16
縁日には、江戸の絵師末庵が描いた「地獄・極楽16幅」を掲げて甘酒などが
振舞われる。 客殿正面の額は徳富蘇峰書である。
- ② 宗 三 寺：曹洞宗の寺。本尊は釈迦牟尼仏。創立年代不詳。かつて、川崎宿の中心
に位置し、源頼朝の時代には、建長寺の末寺で、臨済宗の寺だったが、幾星霜
を経て、曹洞宗に改宗した。
- ③ 助郷会所跡・問屋場跡：近畿日本ツーリスト向かいに案内板。助郷会所は宿場の
公用を行う事務所で、幕府の公用旅行者の人馬、宿泊所の手配をした。
(今は何もない。)
- ④ 小土呂橋の擬宝珠(欄干の親柱)：かつて、東海道と新川堀の交差点地点にあった
石橋が小土呂橋。 現在は暗渠になり姿を消し、擬宝珠だけが残っている。
- ⑤ 上手土井跡：東海道を京都側から入った宿場入口跡。(今は何もない。)
- ⑥ 芭蕉句碑：(八丁驛そば) 元禄 7 年(1694)、江戸の庵を発ち、郷里の伊賀へ帰る
道中、同道してきた門弟達と別れる際に詠んだ句が書かれている。
「麦の穂を たよりにつかむ 別れかな」

(ウラへ)

- ⑦熊野神社：祭神は国常立尊、伊邪奈岐命ほか。弘仁年間(810～824)紀州熊野別当尊慶が勧請したという。明治5年JR東海道線の敷設により八幡社のあった当地へ遷座した。
- ⑧金剛寺：光明山金剛寺。真言宗の寺。創建年代は不明だが、東海道整備に伴い、当地へ移転。東海三十三観音霊場9番。
- ⑨市場一里塚：日本橋から5番目の一里塚。(塚は5間四方が基本。)
- ⑩鶴見橋関門旧跡碑：(鶴見川橋を渡ってすぐ)文久2年(1,862)の生麦事件後、相次いで起こった攘夷浪士による殺傷事件取締りのために置かれた番所の一つ。
- ⑪寺尾稲荷道道標(鶴見図書館手前)：(この道標はレプリカで、本物は、鶴見神社内にあり。)寺尾道は、「寺尾稲荷」(現「馬場稲荷社」馬場3丁目にあり)の参詣と、更にその先の「大山参詣」のための大山道とも接続している。
- ⑫鶴見神社：祭神は素戔鳴尊(すさのおのみこと)、五十猛命(いたけるのみこと)ほか20神を合祀。推古天皇時代(554～628)創建と伝えられる古い神社である。昔は「身禄神社」と呼ばれていた。

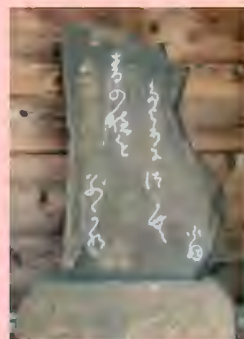
—この後、(京急)鶴見駅又はJR鶴見駅で解散。 食事は自由行動。

東海道歴史探訪5

川崎宿 2

川崎～鶴見

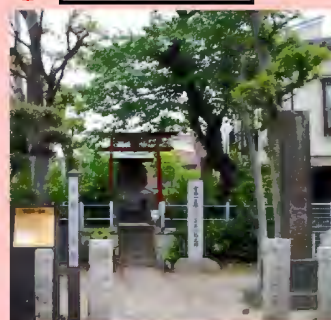
2016.9.7



⑥ 芭蕉句碑
麦の穂をたよりにつかむ
別れかな
はせを



外国人に危害を企てるものがあり、幕府は横浜に入る人を監視した、生麦事件以降川崎宿～保土ヶ谷宿の間に20か所の見張番が設けられた。明治に入り世情も安定してきたので廃止した。



日本橋から5番目の一里塚。
京浜方面ではただ一つ残っている



東海道が幅5mほどの新川掘という排水路を横断するところにかかっていた石橋で、堀は1931～33(昭和6～8)年に埋められ暗渠となったため、橋の欄干の親柱(擬宝珠(ぎぼうじゅ))2基が交差点脇の歩道に保存されている。

問屋場(といやば)は宿場でもっとも重要な施設で、仕事として、幕府の公用旅行者や大名などがその宿場を利用する際に必要な馬や人足を用意しておき、彼らの荷物を次の宿場まで運ぶと云う継立業務で、人馬が不足の場合には、近郷から徴用する助郷という制度もあった。もうひとつは幕府公用の書状や品物を次の宿場に届ける継飛脚(つぎびきやく)と云う業務です。

助郷とは、江戸時代に宿場の伝馬人足が不足した際に、幕府や藩により人馬の補充を目的として、宿場周辺の村落に課した夫役のことです。



⑧ 鶴見神社

境内社 大鳥社、稲荷社、秋葉社
大宮社、富士浅間社、関
神社、祖霊社、清宮社、
多賀社
創建 年代不詳(鎌倉時代と伝わる)



鶴見神社と社殿



鶴見神社境内社



境内社富士浅間社

③ 宋三寺

山号 瑞龍山
次号 宋三寺
宗派 曹洞宗
本尊 釈迦牟尼仏
創建 不詳だが川崎市内最古
の寺といわれている



宋三寺本堂

■江戸時代、「飯盛旅籠」という旅籠があつた。旅人に



遊女塔

床を共にしたりする飯盛女(めしもりおんな)を置く旅籠のこと。飯盛女とは年季奉公で近郷から売られてきた女性たちで、一般旅行者の増えた江戸後期には旅人を留めて宿場の財政を支える大きな役割を果たしていたが、多くは体を壊し、墓にも入れずに打ち捨てられた。供養塔はそんな女性たちの冥福を祈って、大正初期に川崎貸座敷組合によって建てられたものである。台座には、吉田楼、三浦屋、高塚楼など当時の遊郭楼の名前が刻まれている。

① 一行寺

山号 専修山
院号 念佛院
寺号 一行寺
宗派 浄土宗
創建 寛永8年(16)



一行寺山門



一行寺本堂



六地藏尊



閻魔木坐像

■別名「閻魔寺」とも呼ばれ、客殿に安置された閻魔座像と地獄極楽図が一般にご開帳される年2日の数入りの日には大勢の参拝者でにぎわう。

■陰暦の1月と7月の16日を「数入り」といい、閻魔王の斎日で地獄の釜が開く日とされている。この日ばかりは鬼も罪人を責めないといわれ閻魔詣でをする習慣があった。普段は非公開だが1月の第2日曜(または1月16日が日曜の時)と7月16日だけ見ることができる。